

かささぎ 通信 第77号

2019年 2月 8日 発行

どなたでもいつの会でも参加できます

森三郎刈谷市民の会

「森三郎の作品を読む会」

二〇一九年一月の「森三郎の作品を読む会」では

『森三郎童話選集かささぎ物語』（一九九五年、刈谷市教育委員会）所収の「いたちの手ぬぐい」「アオイの大臣」を読みました。

「いたちの手ぬぐい」（坂間修、『赤い鳥』昭和7年8月号

初出）はいくつかの昔話のモチーフをもとに森三郎独自の
お話として構成した作品です。いたちは小さな豆しぼりの
手ぬぐいを頭にかぶってかわいい女の子に化けます。佐々
木喜善の『聴耳草子』にも狐が手拭いのようなものを被っ
て化ける「隠れ頭巾」の話があります。三郎の「いたちの
手ぬぐい」の題名の由来は、いたちが狸とのやり取りの末
に、狸に大切な手ぬぐいを盗まれてしまい、今もちよろち
よると手ぬぐいを探しているところにあります。

いたちは狸に「二人で人間みたいに田を作って、米を作
って、餅をこさえて食べよう」と提案します。狸も同意し
ますが、苗が出来た後、いざ田植え、田の草取り、稲刈り
の時にはお腹が痛いと言つてのがれ、餅つきの時にやつと
手伝い、しかも餅の入った臼を山の上から転がして、早く
つかまえた方が餅を全部もらおうと提案します。でもずる
賢い狸が結局失敗することになります。これは昔話の「寄
り合い田」「餅争い」「餅転がし型」のモチーフを基にした話
だと思われまふ。さらに話は、残った餅で餅酒を作り、狸
といたちがそれぞれ上手に化けて村の鶏屋から鶏をだまし
取るという昔話によくある「化けくらべ」に発展します。
ここでもずる賢い狸が最後は負けてしまいます。

登場する動物は当時は身近な動物であったこと、いたち
の生態を生かした物語作りの面白さ、鶏屋の犬に吠えられ
て、散々いたちをだました狸がいたちの手を引いて逃げる
場面の滑稽さ、うぬぼれやのいたちのナルシストぶりなど、
集まった会員からこの話の楽しい感想が生まれました。

「いたち」と「手ぬぐい」の組み合わせというと、北原白秋の童謡「い
たち」（『赤い鳥』大正14年5月号）の第一連「あかい手拭、あねさま
かぶり、鮎（いたち）見つけた。ちらりと見えた。」が浮かんできます。
森三郎はあるいはこの童謡のイメージをお話に仕立てたかったのでは
ないかと想像されます。

「アオイの大臣」（森三郎）は、『赤い鳥』終刊から十二年後に発行
された単行本『幼年童話集 帽子に化けたクロネコ』（東京一陽社、昭和
24年2月）に収められた作品です。この童話集には、生きることある
いは命そのものについて伝えようとした作品が多くみられます。戦中・
戦後の混乱の中で三郎自身もどう生きようかと模索していたのではな
いかと思います。たとえばここに所収の作品「いのちの花輪」では、戦
争中、母と二人東京で暮らしていた時の隣組の防空隊長の役目の事、終
戦の年の一月の地震の際に田舎の家が倒れかけているとの知らせで母
と帰郷したが、十一日目に母が肺炎で亡くなった事、母の死後三十五日
の晩に大空襲で東京の家が焼けた事、その一か月ほど後には下宿先も焼
け、再び帰郷したことが書かれています。これらはほぼ実体験で、その
後結婚をし、母の三回忌もすませ、もうじき二人目の子の父親になるう
とする作者が、命の花輪を編む女神たちに「お菓子のかわりになるよう
な幸運の花をたつぷりと」と、生まれてくる子のために祈る話です。「ア
オイの大臣」は平安時代に舞台を変えて、愛する人とその子供の命を救
う話です。アオイの大臣の今際の時に傍らで祈っていた侍女ヤマブキ
は、もはや神に見放されたと思うと、魔法の子守唄を歌い子どもたちをトリ
代わりに自らは白いハトになり、魔法の子守唄を歌い子どもたちをトリ
カブトの花に変える使命を負わされます。最後には、自分の命と引き換
えに子どもたちを救います。会では自己犠牲ということについて話が広
がりました。

次回「森三郎の作品を読む会」（第二金曜日に刈谷市中央図書館で開催）

二〇一九年三月八日（金）午後一時半～三時半

「山彦」「雪ごんごんお寺の柿の木」「森三郎童話選集かささぎ物語」